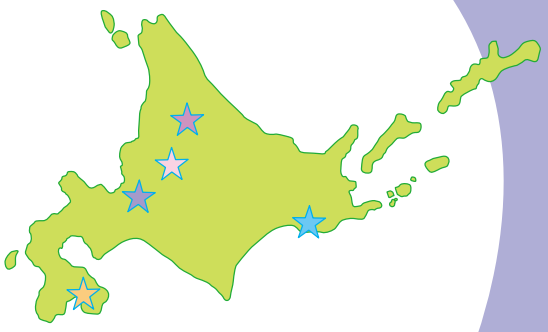
国立大学法人
北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

基金だより



FUND REPORT
第14号

はじめに

北海道教育大学長
蛇　穴　治　夫

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学では、教員をめざす、あるいは地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するため、平成18年12月に基金を創設し、募金活動を実施してまいりました。

この間、多くの企業・団体、同窓生、学生の保護者及び教職員をはじめとする、本学を思う様々な方々からご寄附を賜り、これまでに、延べ710名を超える学生に奨学金を授与してまいりました。また、経済的な理由により修学が困難な学生を支援する『修学支援事業』、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設・実施するなど、大変有意義に基金事業を展開することができました。
皆様から温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、現代社会に目を向けると、グローバル化などの進展に加え、Society5.0の実現に向け社会構造の変化がますます加速する中、予測困難な時代を生きる子どもたちの教育に求められる内容も変化しています。本学では、教員を「教育に関する高度な専門職業人」と捉え、教育に関する専門的知識に裏打ちされた実践力や自ら問題の発見・解決に取り組む基本的な臨床的研究能力、そして教育的愛情と使命感を基礎として学び続ける力を持った人材を養成しています。
また、地域社会では、少子高齢化や人生100年時代の到来、地方創生の実現に向けた諸課題が山積する中、持続可能で活力ある社会を目指した変革が求められており、「国際地域学科」と「芸術・スポーツ文化学科」では、グローバルな視点をもって地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かで幸福な生活を提案できる人材を養成しています。

本学は、次世代を担う人材養成のため、充実した教育体制や教育を支える環境整備はもとより、学生自身の自発的で積極的な学習への取組の奨励、経済的な理由により学業を断念することなく、安心して学業に専念できるための支援を行うなど、今後も基金事業を充実・継続し、「教員と地域人材の養成を通じて、地域の成長・発展を牽引する大学」の実現に努めてまいりますので、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目　次

1. 令和2年度事業報告…… 2
2. 基金の収支状況 …… 2
3. 育英事業奨学金受給者から …… 3
　学部学生 …… 3
　大学院生 …… 6
4. 奨学金授与者数 …… 8
5. 寄附者のご紹介 …… 9
　企業、法人、団体等 …… 9
　個人 …… 10
6. 大学の近況報告 …… 11
7. お知らせ…… 13

1　令和2年度事業報告

■令和2年度事業として以下のとおり実施しました。

育英事業

①優秀な大学院生（現職教員以外）への奨学金給付　10名に対し、1人10万円　計100万円を給付

②優秀な学部学生への奨学金給付　15名に対し、1人10万円　計150万円を給付

計　25名　250万円を給付

修学支援事業

①経済的理由により修学困難な学生への授業料減免
10名に対し、前期分授業料　計1,294,850円を免除

②経済的理由により修学困難な学生への奨学金給付
8名に対し、1人10万円　計80万円を給付

③新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、経済的理由等により修学困難な学生への奨学金給付
568名に対し、1人2万円または3万円　計14,090,000円を給付

表彰事業

意欲的に学習や自己研鑽に励み、学業成績優秀な学生や課外活動等の成果が特に顕著な学生等を表彰
学業成績優秀者16名、その他の表彰個人4名、団体1組（表彰状及び記念品を贈呈）

教員養成特別入試奨学金

教員となる強い意志を持った者を対象とした「教員養成特別入試」で合格した入学生への奨学金給付
12名に対し、1人10万円、計120万円を給付

キャンパス指定事業、附属学校（園）支援事業

「キャンパス活性化リノベーション事業」による修学環境の整備、岩見沢校サッカー部の活動支援のほか、各校の修学環境整備、学生支援、教育支援、就職支援、学生活動支援等に要した経費を支出

2　基金の収支状況

■令和2年度のご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収　入		支　出	
前年度からの繰入	49,284,945		
修学支援事業	19,038,780	修学支援事業	16,184,850
その他の事業	54,442,708	その他の事業	49,833,417
育英事業等	821,831	育英事業等	4,154,257
キャンパス指定事業	42,354,900	キャンパス指定事業	40,695,559
附属学校（園）支援事業	11,265,977	附属学校（園）支援事業	4,983,601
		管理費（リーフレット、手数料等）	452,237
合　計	122,766,433	合　計	66,470,504
		差引収支額	56,295,929

■平成18年12月の基金創設時から、令和3年3月までのご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収　入		支　出	
修学支援事業	44,973,910	修学支援事業	23,215,086
その他の事業	239,423,609	その他の事業	201,587,227
育英事業等	97,060,215	育英事業等	89,359,225
		現代的教育課題への研究支援事業	306,188
キャンパス指定事業	122,057,917	キャンパス指定事業	100,529,528
附属学校（園）支援事業	20,305,477	附属学校（園）支援事業	11,392,286
		管理費（リーフレット、手数料等）	3,299,277
合　計	284,397,519	合　計	228,101,590
		寄附金残額	56,295,929

3　育英事業奨学金受給者から

学部学生

◆札幌校　教員養成課程　言語・社会教育専攻　2年　菊地　穂香

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で評価していただいたことを大変嬉しく思います。

入学してからの1年間、慣れないこともたくさんありましたが、多くの方々の支えがあって勉学に励むことができました。今年度は新型コロナウイルスの影響で先の見えない状況が続いておりますが、変わらず勉学に励むとともに、自分を支えてくださる方への感謝を忘れないようにしたいと考えております。

重ねて、この度の授与に御礼申し上げます。

◆札幌校　教員養成課程　学校教育専攻　3年　安中　詩織

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。努力の成果をこのような形で評価していただけたことを、大変嬉しく思っております。

私は現在、子どもが自ら疑問を探し、それを授業や日常生活で探究できるような教育を行うことのできる教育者を目指して、日々勉学に励んでおります。

今後もご支援いただいた方々への感謝を忘れず、将来自分が教師としてどう子どもたちや教材と向き合っていくのかを考えながら、日々精進していきたいです。

◆札幌校　教員養成課程　生活創造教育専攻　4年　疋田　明日美

このたびは北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で学業の成果を評価していただき、驚くとともに、大変光栄に思います。

授与していただいた奨学金は、研究のための参考文献の購入や、子ども支援のボランティアに関わる費用として、大切に使わせていただきたいと思います。ご支援していただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、さらなる自己研鑽を積んでいきます。本当にありがとうございました。

◆旭川校　教員養成課程　教育発達専攻　2年　柳谷　明依瑠

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。多くの方々のご支援のおかげで日々勉学に励むことができていることを改めて実感し、自らの学業へ向かう姿勢を見つめ直し、さらに頑張っていこうという意欲にもつながりました。支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも1つ1つの学びを大切にし、一生懸命取り組んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。

◆旭川校　教員養成課程　教育発達専攻　3年　田中　理香子

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

特別支援学校の教師になることが、小さいころからの私の夢でした。現在は、子どもをよく理解し、ひとりひとりに応じた教育ができる教師を目指し、日々勉学に励んでおります。そして、このような形で、日々積み重ねてきた努力を評価していただけたことを、大変嬉しく思います。

今後とも、感謝の気持ちを忘れることなく、教師となって北海道の特別支援教育に貢献することができるよう、より一層精進してまいります。

◆ 旭川校　教員養成課程　教育発達専攻　4年　大内　明

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく光栄に思います。

私は多くの方々に支えていただき、日々勉学に励むことができていると感じております。この感謝の気持ちを忘れず、将来学校教育を通して社会に貢献できるよう、より一層精進してまいります。

皆様の温かいご支援に重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

◆ 釧路校　教員養成課程　地域学校教育実践専攻　2年　嶋田　萌夏

この度は、北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で自身の努力の結果が評価されたことを大変光栄に思っています。

私は入学後から、道東地域の学校現場を中心に多くの教育現場に赴き、その場での人との関わりを通して「面白い授業とは何なのか」ということについて学びを深めています。まだまだ未熟な私ではありますが、これからも謙虚に学ぶ姿勢と自分を支えてくれる人や環境への感謝の気持ちを大切に、勉学や学校活動に励んでいきたいと思っています。

最後になりますが、この度は本当にありがとうございました。

◆ 釧路校　教員養成課程　地域学校教育専攻　3年　土屋　柾

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で自分が評価されることは、今後の勉学の励みになります。

ご支援いただいた皆様に感謝するとともに、現状に満足せず、自分の理想の教師像を追い求めながら学校現場で活躍できるような実践力を身に付けられるよう、より一層学び、成長し続けたいと思います。

先を見据え、今できることを全力で行っていきます。誠にありがとうございました。

◆ 釧路校　教員養成課程　地域・環境教育専攻　4年　小堀　亜希

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心から、感謝申し上げます。このような形で今までの努力が評価され、大変嬉しく、光栄に思います。

私は、地域教育を中心に日々勉学に励んでおります。本学で学んだことや大学2年次での交換留学で学んだことをもとに、将来は世界で活躍できる教員をめざし、より一層奨学生としての自覚を持ち、今後も勉学に励んでいきます。

ご支援いただいた皆様、この度は誠にありがとうございました。

◆ 函館校　国際地域学科　地域協働専攻　2年　安田　小夏

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

私は情報科学や数学を中心に学習しつつ、自らが副団長を務める吹奏楽団の活動にも注力しております。課外活動でしかできない経験を多く得られるほか、自分らしさを表現できる場があることで自身の成長に繋がっていると感じております。

今後は将来に向けた学習及び研究を行いつつ、吹奏楽を通じて地域の芸術文化の発展にも寄与したいと考えております。

◆ 函館校　国際地域学科　地域協働専攻　3年　佐々木　萌花

この度は北海道教育大学基金育英事業より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。奨学生に選んでいただいたこと、大変嬉しく光栄に思います。

このような形で評価していただき、多くの方々の支えのおかげで、大学生活を送ることができているということを改めて感じています。これからも多くの方々に支えられていることへの感謝を忘れず、今まで以上に勉学に励んでいきたいと思います。

ご支援いただいた皆様、この度は誠にありがとうございました。

◆ 函館校　国際地域学科　地域協働専攻　4年　近野　真優

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。こういった形で学業の成果を評価していただき、大変光栄に思います。

現在私は、アメリカン・コミックスについて研究しています。授与していただいた奨学金は、その研究費として大切に使わせていただく所存です。

大変な世の中ではございますが、ご支援していただいた皆様への感謝の気持ちを忘れず、より一層気を引き締め、勉学に努めてまいります。

重ねて、御礼申し上げます。

◆ 岩見沢校　芸術・スポーツ文化学科　スポーツ文化専攻　2年　横山　円香

この度は、北海道大学基金より奨学金を授与していただき誠にありがとうございます。また、寄附をしてくださった方々、支えてくださっているすべての方々に改めて感謝を申し上げます。

昨年度は、大学の勉学と部活動のテニスの両立をすることを努力してきました。今回、このような賞をいただき、とても有意義な大学生活を送ることができていたことを改めて実感しました。今年度はコロナ禍により大変な状況ですが、支え合って乗り越えていきたいです。

◆ 岩見沢校　芸術・スポーツ文化学科　芸術・スポーツビジネス専攻　3年　木下　あずみ

この度は、成績優秀者に選出いただきましたこと並びに、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただきましたことに心より感謝を申し上げます。この制度を存じておりませんでしたので、話を聞いた時には大変驚いたのと同時に、昨年1年間の自らの勉学への取り組みを評価していただけましたことを非常に嬉しく思いました。

今、世界では新型コロナウイルスの流行に伴い、学びの形が変わりつつありますが、そのような中でも、学びを止めることなく、より深めていきたいと考えております。

最後になりますが、この度は誠にありがとうございました。

◆ 岩見沢校　芸術スポーツ文化学科　芸術・スポーツビジネス専攻　4年　落合　美優香

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。日々の勉学の成果を評価していただき、大変光栄に思うと共に、これもひとえに、ご支援とご指導を賜った全ての方々のおかげであり、皆さまに心より感謝申し上げます。

私は様々なコンテンツを活用した地域活性化の可能性について研究しています。いただいた奨学金は今後の研究費等にあて、より一層勉学と研究に精進して参りたいと存じます。

本当にありがとうございました。

大学院生

◆ 教科教育専攻　数学教育専修（札幌・岩見沢校）　2年　伊藤　大智

北海道教育大学基金からこのような形でご支援をいただけたことに、感謝を申し上げるとともに誇りに思います。

高く評価していただいた自分のこれまでの取り組みを継続し、今後さらに教育に貢献できるよう、より一層精進していきます。

研究活動にこれまで以上に励むと同時に、身を引き締めて残りの院生生活を送っていきたいと思います。

改めて、この度は、このような素敵な育英事業の対象者に選んでいただき、本当にありがとうございました。

◆ 教科教育専攻　保健体育専修（札幌・岩見沢校）　2年　阿部　陽輔

この度は、北海道教育大学基金より、奨学金を授与していただきまして誠にありがとうございます。また、本奨学金事業に携わってくださった方々へ改めて感謝申し上げます。

私は、社会人入試を経て学部に入学し、現在は大学院において学びを深めています。奨学金を授与されたことに傲ることなく、今後の更なる研究、地域活性のための課外活動に邁進していく所存です。

最後になりますが、この度は奨学金を授与していただきましたことを誇りに思うと同時に、心より御礼申し上げます。

◆ 学校教育専攻　学校教育専修（札幌・岩見沢校）　2年　王　晴

この度は北海道教育大学基金により奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。奨学生に選んでいただいたことを、大変嬉しく光栄に思っております。

北海道教育大学で学んだ特別支援教育に関する知識を活かせるよう、悔いの残らない学生生活を過ごしていきたいと思います。

また、ご支援して頂いた方々への感謝の気持ちを忘れずにより一層勉学に励んでいきます。

この度は誠にありがとうございました。

◆ 教科教育専攻　保健体育専修（札幌・岩見沢校）　2年　村上　孔輔

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠に感謝しております。大学院での学びをこのような形で評価していただき、大変嬉しく光栄に思います。現状に満足せず、今後も勉学と研究に励んでいきます。

本奨学金は、大学院で保健体育科教育を今よりもさらに学び、自分自身が理想とする教員像に近づくために大切に使わせていただきます。

最後になりましたが、ご支援をくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。

◆　教科教育専攻　技術教育専修（旭川校）　2年　三澤　健太郎

この度は北海道教育大学基金より、奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。

大学院での取り組み、学びをこのような形で評価していただき、とても嬉しく思うとともに、これまでご支援、ご教授して頂いたすべての方々に改めて心より御礼申し上げます。

今後も奨学金授与者として、また北海道教育大学の学生として恥じぬよう、勉学、研究活動に励む所存でございます。この度は本当にありがとうございました。

◆ 学校教育専攻　学校教育専修（釧路校）　2年　阿蘓　寛明

この度は、奨学金を授与していただきありがとうございます。

大学院での学業の成果を評価していただき、非常に嬉しく感じております。また、大学院での学びを支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。私一人ではなく、多くの方々に支えられ学ぶことができていることを再確認する機会となりました。

今後、より一層研究に励むとともに、限られた大学院生活において、悔いの残らないよう学びを深めていきたいと考えています。本当にありがとうございました。

◆ 学校臨床心理専攻　学校臨床心理専修（旭川校）　2年　佐藤　環

この度は奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。大変嬉しく光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。

尊敬する先生方のご指導や、志を同じくする大学院生の方々との出会いによって、非常に実りある学生生活を送ることができました。大学院修了後も生涯学び続ける姿勢を忘れることなく、社会貢献を果たしていきたいと考えております。

最後になりますが、ご支援くださった全ての方々に重ねて御礼申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。

◆ 高度教職実践専攻　高度教職実践専修（札幌校）　2年　久野　誠司

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。

お話をいただき大変光栄に思うと同時に、学びとは多くの人に守られ支えられて為される営みなのだと改めて感じました。皆様から受けたように、私もまたこれから出会う子どもたちの学びを力強く支えられる教師となるため、また専門の社会科を通して、誰かのために生きること、他者との共生を大切にできる子どもたちを育てられるよう、より一層研鑽を重ねて参りたいと思います。

最後になりますが、皆様の暖かいご支援に改めて御礼申し上げます。有難うございました。

4 奨学金授与者数（修学支援事業を除く）

（単位：人）

区　分		札幌校 札幌・岩見沢校	旭川校	釧路校	函館校	岩見沢校	計
平成19年度	大学院生	7	5	3	3	—	18
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	13	11	9	9	6	48
平成20年度	大学院生	32	15	13	4	—	64
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	38	21	19	10	6	94
平成21年度	大学院生	42	25	16	5	—	88
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	48	31	22	11	6	118
平成22年度	大学院生	36	16	12	5	—	69
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	19	15	8	3	84
平成23年度	大学院生	36	11	10	3	—	60
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	14	13	6	3	75
平成24年度	大学院生	33	16	8	4	—	61
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	36	19	11	7	3	76
平成25年度	大学院生	20	8	7	2	—	37
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	23	11	10	5	3	52
平成26年度	大学院生	3			2	—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	6	3	3	5	3	20
平成27年度	大学院生	2		4		—	6
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	3	7	3	3	21
平成28年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成29年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成30年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
令和元年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
令和2年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
計		287	161	130	84	51	713

5 寄附者のご紹介

北海道教育大学基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、寄附講座開催や修学環境整備等への支援を行っております。

ここに、そのご厚志に対し感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいている方々のご芳名とご寄附額をご紹介させていただきます。

■寄附者ご芳名　※令和２年４月～令和３年３月までにご寄附をいただいた方々を掲載しております。

企業、法人、団体等（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

10万円以上

岩田地崎建設株式会社 様	有限会社河村工業 様	空知リゾートシティ株式会社 様
一般社団法人北師同窓会 様	株式会社北海道アルバイト情報社 様	北海道機販株式会社 様
北海道教育大学旭川校後援会 様	北海道教育大学鶴陵会 様	北海道教育大学釧路校後援会 様
北海道教育大学札幌校教育後援会 様	北海道教育大学青陵会 様	北海道教育大学六稜会平成3年卒同期会燦の会 様

※五十音順

10万円未満

株式会社アース技研 様	旭川電気軌道株式会社 様	株式会社石田文具 様
共進工業株式会社 様	株式会社くりねん 様	株式会社コーノ 様
小坂工務店 様	株式会社サンテックス 様	社会福祉法人聖樹の杜 様
タマツ電機工業株式会社 様	千葉電気工業株式会社 様	株式会社道水 様
株式会社はこせき 様	函館駅二商業協同組合 様	株式会社函館平安システム 様
有限会社北光教販 様	三浦商会 様	みぞぐち事業株式会社 様
株式会社悠愛 様		

※五十音順

企業、法人、団体等（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

旭川大学高等学校旭川校卒業生一同 様	株式会社エッセ 様	学大二九の会 様
教職員共済生活協同組合 様	社会福祉法人函館恵愛会クレドホテル函館 様	北海道教育大学函館校尚学会 様
北海道教育大学生活協同組合 様	山田総合設計株式会社 様	社会福祉法人侑愛会 様

※五十音順

個人（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた個人）

10万円以上

浅井継悟 様	浅利祐一 様	植木克美 様	梅津和宏 様	海老名 尚 様	大久保達海 様	小野川文子 様
柿沼博彦 様	菊地　圭 様	黒﨑米造 様	後藤泰宏 様	今野文夫 様	酒井　貢 様	佐川正人 様
佐々祐之 様	佐々木 賢 様	志手典之 様	芝木美沙子 様	蛇穴治夫 様	杉本任士 様	中村太一 様
玉井康之 様	徳佐泰孝 様	戸田弘二 様	福田　薫 様	三上　修 様	安島　進 様	山岡邦彦 様
龍　聡己 様						

※五十音順

10万円未満

青木満里 様	青木康郎 様	青木優一 様	秋田正彦 様	東　健治 様	阿部直保 様	安藤裕康 様
石井紀夫 様	伊藤　泰 様	井上光雄 様	入江修策 様	江川佳郎 様	大泉恒彦 様	小笠原美勝 様
落合清治 様	懸田孝一 様	鹿嶋利幸 様	片桐利朗 様	金田文夫 様	鎌塚宗一 様	神山浩司 様
川端美穂 様	神原正至 様	菊野雅之 様	北守昭文 様	紀藤典夫 様	木原英俊 様	蔵本康彦 様
栗田俊一 様	小関　隼 様	小林佳之 様	孔　麗 様	酒井多加志 様	佐々木まき 様	佐藤康幸 様
佐野　武 様	品田亮子 様	島澤正弘 様	正本惠子 様	千賀　愛 様	髙橋昭五 様	田口雅紀 様
武内貴宏 様	立花捨美 様	谷本　愛 様	千葉　康 様	中塚英俊 様	中山晃一 様	中山雅雄 様
二井仁美 様	沼澤順子 様	野村英子 様	野村　卓 様	秦　豊治 様	濵方弥生 様	林　保彦 様
引地秀美 様	樋口忠次郎 様	樋口英子 様	兵頭　進 様	星野　良 様	本庄利光 様	本堂知彦 様
前岡和雄 様	前田三四郎 様	丸山四郎 様	三浦哲也 様	水上丈実 様	村上博章 様	村越含博 様
村山憲司 様	森　信子 様	安川禎亮 様	山内祈信 様	山口紀代志 様	山口文章 様	山田真央 様
山本涼香 様	柚木朋也 様	横井茂子 様	横藤雅人 様	吉田　亨 様		

※五十音順

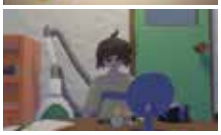
個人（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた個人）

青木昌雄 様	赤瀬國治 様	渥美伸彦 様	阿部哲夫 様	荒川芳央 様	飯間博幸 様	五十嵐靖夫 様
池田考司 様	石川智浩 様	石澤伸弘 様	石田愉良 様	石塚博規 様	泉澤玄一郎 様	伊藤晃一 様
伊藤祐子 様	稲葉宏彰 様	入江修策 様	岩木公平 様	植木克美 様	上山恭男 様	内山　隆 様
宇野貴雄 様	大久保光哉 様	大橋賢一 様	緒方　公 様	奥田知靖 様	奥村　広 様	小倉晃布 様
押田雅広 様	小田将之 様	笠原　究 様	片桐正敏 様	川原　憲 様	菅野淑子 様	神林　勲 様
岸　小夜子 様	北野　彰 様	木下俊吾 様	木村光廣 様	工藤大幹 様	久保聡一朗 様	熊谷武治 様
車谷芳隆 様	小泉信隆 様	河野圭佑 様	光野義富 様	國分佑佳 様	小島容子 様	小林芳博 様
媚山敏文 様	今　福一 様	齊藤　彰 様	齊藤健司 様	齋藤牧子 様	齋藤征人 様	酒井義信 様
佐々木和彦 様	佐々木国博 様	佐々木準子 様	佐々木貴子 様	佐藤　隆 様	佐藤達夫 様	佐藤雅紀 様
佐藤由佳利 様	佐野真知子 様	菅　正子 様	菅股庄二 様	関谷祐里 様	瀬能　均 様	髙久　元 様
鷹野正義 様	髙橋　丈 様	田口　哲 様	田澤　隆 様	谷中博文 様	種市信裕 様	寺山秀人 様
戸田まり 様	豊田稜祐 様	中尾　進 様	中垣隆之 様	中島太郎 様	中島　太 様	中西紗織 様
中西康晴 様	中村吉秀 様	成田和弘 様	成田憲隆 様	南部正人 様	西宮宜昭 様	野上大輔 様
芳賀　均 様	橋本　彩 様	橋本忠和 様	服部麻実 様	樋口壽夫 様	久田行雄 様	平川伸明 様
福田　宏 様	船曳康徳 様	本庄十喜 様	本間都子 様	前田克彦 様	増渕哲子 様	松井操人 様
松永加也子 様	松橋智子 様	丸山俊明 様	三浦　哲 様	三橋純予 様	宮腰秀弘 様	宮澤正行 様
向山愛子 様	村上知子 様	森　晶子 様	森 健一郎 様	八重樫裕美 様	八重樫良二 様	八木利夫 様
安川禎亮 様	山下英幸 様	山地博之 様	横山　充 様	横山吉樹 様	吉田　勉 様	若松泰生 様

※五十音順

6 大学の近況報告

■ 札幌校放送局が第37回NHK全国大学放送コンテストにおいて文部科学大臣賞を受賞



今年度、本学札幌校に新たに登録された学生団体「北海道教育大学札幌校放送局」が、令和2年12月5日㈯に京都アスニーで開催された第37回NHK全国大学放送コンテストにおいて、映像番組部門決勝で1位に輝くとともに、文部科学大臣賞を受賞しました。

今回の大会では全国から71団体、355作品の応募があり、その中で創部1年目での受賞という快挙となりました。

「北海道教育大学札幌校放送局」の今後の活躍を応援いただくようお願いします。

※以下のリンク先から、受賞作品が閲覧可能ですので、是非ご視聴ください。

https://youtu.be/YPqQg7DKSm0

■ 札幌校学生がコロナ対応小冊子「コロなび！」を発行

北海道教育大学札幌校で小学校教員を目指す教育方法学研究室の3年生が、新型コロナウイルスについての理解を深めてもらうための小冊子「コロなび!」を作成しました。同研究室では、希望者には電子データで配布しており、様々な方面から所望する反響がありました。

「コロなび!」は、授業で学んだ新型コロナウイルスの特徴や症状の知識を活かし、感染予防や偏見の防止に役立ててもらおうと企画したもので、新型コロナウイルスの症状、感染の仕組み、感染しないためにできることなどについて、イラスト付きで紹介しています。

作成した学生たちは、「正しい知識を身につけて、それを基に考えることの大切さを理解してほしい」、「感染の仕組みを知ることで、自分で対策を考えて日々の生活を少しでも良くするためにこの小冊子を役立ててほしい」と語っていました。

▼ダウンロードはこちらから

https://www.hokkyodai.ac.jp/images/info_topics/00011600/00011626//20210126084628.pdf

■ 旭川校学生による食育ボランティア活動がNHKの番組で紹介

活動中の様子

令和3年1月30日㈯に旭川市北星公民館にて実施された、旭川校家庭科教育第2ゼミナールの学生による食育ボランティア活動の様子が、NHK旭川放送局の1分ミニ番組「Actions for DOHOKU」にて紹介、放送されました。

この活動は、ゼミ活動の一環として毎年夏と冬の2回、旭川市北星公民館との共催のもと「はらぺこクッキング」と称し、1～3年生のゼミ学生が中心となって毎回企画・計画を立てています。また、広報・募集として旭川校周辺の小学校への周知、ならびに旭川市の広報誌「あさひばし」に掲載することで参加小学生（4～6年生）約16名を募集し、地域食育講座として実施しています。

番組では活動の概要、この日の活動内容・目的・特徴のほか、参加した子どもたちの表情や、コロナ禍でも感染防止への工夫や対策をして、いきいきと活動する学生の様子などが紹介され、番組を通じて食育の大切さを発信することができました。

■ 釧路校学生が100万年前の鯨の化石を発掘

令和2年9月下旬から11月初旬にかけて、釧路校境智洋・松原尚志両教員の指導の下、学生・院生11名が釧路町内の約100万年前の地層から鯨の化石を発掘しました。その結果、同一個体に由来する多数の部位の化石が採集されました。いくつかの標本のクリーニング・保存処理作業が完了し、公開できる状態となりましたので、その学術的な意義と合わせてご報告します。

発掘調査は9月29日から11月8日にかけての9日間に、釧路校の学生・院生ボランティア11名（のべ26名）の参加を得て行われました。発掘調査と松原教員によるクリーニング作業の結果、同一個体に由来する前・後頭骨、左下顎骨（前方約1/2が欠損）・右下顎骨、頸椎、肋骨（10本以上）などの産出が確認できました。

下顎骨の特徴から、本標本はヒゲクジラ類のナガスクジラ科の種であると考えられます。現在のナガスクジラ科には2属9種が含まれますが、多くの種ではいつ地球上に出現したのか、はっきりとは分かっていません。

今回、学生たちにより発掘された鯨の化石は、道東の新第三紀（2303万年前～258万年前）～第四紀更新世（258万年前～1.1万年前）の地層からとしては最も保存状態の良い標本となります。今後のクリーニング作業と分類学的研究の進展により、ヒゲクジラ類の進化を研究する上で、重要なデータをもたらすことが期待されます。

■ 釧路校が「新型コロナウイルス感染症と障害のある子どもの生活を考えるシンポジウム」を開催

令和3年1月11日㈪、釧路校特別支援教育研究室の主催（北海道特別支援教育学会根釧支部共催）による「新型コロナウイルス感染症と障害のある子どもの生活を考えるシンポジウム」がZoomにより開催され、教育・福祉関係者を中心に62名の方にご参加いただきました。

冒頭、小野川文子教員から、特別支援教育研究室が実施した「新型コロナウイルス感染症に関わる休校・生活制限等による障害児とその家族の生活困難・ニーズ調査」の報告が行われました。北海道・東京・埼玉において障害児を育てる保護者を対象とした同調査から、特別支援学校の一斉休校が障害児の健康や発達へ大きな影響を及ぼしたこと等が説明されました。コロナ禍は、学校の教育的機能・福祉的機能をあらためて明確にするとともに、障害児独自の支援体制が求められるとの説明がありました。

シンポジウムでは、特別支援学校・福祉事業所・保護者それぞれの立場から、障害のある子どもと家族の生活の現状を共有し、これからの教育・福祉の在り方を考える内容となりました。

会の最後に、戸田竜也教員から、潜在化していた教育・福祉の課題がコロナにより明らかになり、とりわけ障害児や家族の負担・困難として顕在していること、その解決に向けて、教育・福祉のそれぞれが苦悩を語り合い、お互いを想像し合いながら、共通のゴールである「子どもと家族の幸せ」につながる連携・協働を地域の中で模索する必要があること、今回のシンポジウムをそのスタート地点とし、ここで確認された「前向きな芽」をみんなで大切にしていきたいとの意見が述べられました。

釧路校特別支援教育研究室では、今後もコロナ禍における障害児と家族の生活と発達に焦点をあてて、研究および支援につながる取り組みを継続していきたいと考えています。

■ 函館校学生が日本造園学会北海道支部大会で「ポスター発表奨励賞」を受賞

菅原百香さん（左）・長峯大虎さん（右）

2020年度の日本造園学会北海道支部大会が令和2年10月10日㈯から10月18日㈰にかけてウェブ上で開催され、函館校景観生態学研究室（地域協働専攻地域環境科学グループ村上健太郎ゼミ）の菅原百香さん･長峯大虎さんらの研究発表が、「ポスター発表奨励賞」を受賞しました。

この発表は、シダ植物や爬虫類などの生物が、人工構造物である石垣に生育・生息していることに着目した研究で、菅原さんらは、130種以上の「石垣を利用する絶滅危惧生物」を文献調査から抽出し、それらを分類群ごとに整理する作業を行いました。コロナ禍でフィールドワークが充分に行えない代わりに、日本全国から文献を取りよせ、室内で丹念に調べた結果をまとめたものです。その結果、トカゲ亜目全種の17.6%、ヘビ亜目全種の9.3%が石垣に生息する絶滅危惧種であること、シダ植物においても高い割合で石垣に生育する絶滅危惧種が含まれていたことなどを明らかにしました。人工構造物が絶滅危惧種の生息場所となりえるという、ユニークな着眼点に関心が集まり、生態学に加えてまちづくりやデザイン分野でも応用されうる、より深みのある研究への発展が期待される点が審査員から評価され、表彰されたものです。

■ 岩見沢校学生が「岩見沢市学生・農業短期就労支援事業」に参加

作業を行う学生

岩見沢市、いわみざわ農業協同組合及び岩見沢校が連携し、学生と農業者のニーズを結びつける「岩見沢市学生・農業短期就労支援事業」を開始しました。

この事業は、学生の移動手段の確保（岩見沢市）、就労先の取りまとめ（いわみざわ農業協同組合）、就労者の募集（岩見沢校）を三者で情報共有しながら行うもので、新型コロナウイルス感染症の影響によりアルバイト収入が減少している学生への経済支援と、短期就労者の確保が喫緊の課題となっている岩見沢市の農業者への働き手の斡旋を目的としています。

今年度は10名の学生が参加し、岩見沢市内の様々な農家で作業を行いました。参加したスポーツ文化専攻の学生は、「もともと岩見沢市の地場産業である農業に興味があり、昨年も農家で白菜の積み込みアルバイトをしていました。新型コロナウイルス感染症の影響で自宅にいる時間が増えたため、広い大自然の中で作業をできるこのような機会を貴重に感じています。大豆の上に生えている草取りを行っていて、どのように体を使うと効率的にできるか考えながら取り組んでいます。」と話し、大学での学びとも結びつけながら楽しんで作業を行っていました。

■ 岩見沢校学生が産学連携のスポーツ振興事業〈uniformics（ユニフォーミクス）〉に参加

発表会見での記念写真

北海道日本ハムファイターズによる〈uniformics（ユニフォーミクス）〉事業において、本校美術文化専攻の学生がロゴマーク及びユニフォームデザインの制作に協力しました。

〈uniformics（ユニフォーミクス）〉事業とは、「デザインのチカラで野球振興」をコンセプトとして、大学でデザインを学ぶ学生たちが学童野球チームのロゴマーク・ユニフォーム・キャップをデザインする企画で、学生にプロダクトデザインを体験する学びの機会を提供するとともに、野球をする子どもたちには“かっこいい”“かわいい”自分たちだけのデザインを提供する「野球×デザイン×教育」に関する産学連携のスポーツ振興事業です。

事業の第1期となる今回は、留萌市の「東光ブルーウェーブ」及び「留萌エンジェルス」のユニフォームを製作することとなり、岩見沢校を含む道内4大学の学生によるデザインコンペの結果、岩見沢校美術文化専攻学生が手掛けたデザインが採用されました。岩見沢校では今後も引き続き本事業に参加していく予定です。

■ キャンパス活性化リノベーション事業について

令和元年度キャンパス活性化リノベーション事業の「〈岩見沢校〉大学ギャラリー」が完成

令和3年1月、岩見沢校の敷地内に新たにギャラリー「森の岩ギャラリー」が誕生しました。

このギャラリーは、倉庫として使われていた古い浄化槽設備を改修したもので、改修費用の一部は、岩見沢校の取り組みを応援してくださった多くの方々からのご寄附を活用させていただきました。本事業へご協力いただいた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

例年であれば、美術を学ぶ学生たちは、大学での授業や教員の指導を直接受けながら多くの作品を制作し、学外の大きなギャラリースペースで積極的に作品展を開催しています。

しかし、このコロナ禍の下では、一時は大学で自由に制作活動を行うこともできず、大人数での活動の制限やアルバイト収入の減少などもあり、思うようには制作・発表に取り組めなかった学生も少なくありませんでした。

敷地内にギャラリーが完成したことで、こうした中でも、授業の成果発表や、少人数でのちょっとした作品展などを気軽に行うことができるようになりました。このギャラリーが、学生たちが少しずつ日常を取り戻し、思う存分制作に打ち込んで、皆様に発表していける場となっています。

今回完成したギャラリーの周辺には北海道ならではの豊かな自然が溢れています。

今はまだ、大きな池と広大な森があるだけの場所ですが、この環境を整備して、さらに色々な取り組みを行っていく予定です。

たとえば、池を綺麗にして大学でアウトドアを専門に学ぶ学生たちと一緒にカヌー体験をする、森の中にウォーキングコースを整備して親子で参加する森のガイドツアーを行う、森の一部をキャンプ場として利用できるようにする、ギャラリーの周囲をカフェスペースにして音楽を聴きながら誰でも寛げる場所とするなど、子どもたちが「大学で遊んでくる!」と気軽に来て、家に帰って楽しかったことや学んだことを話せるような、地域に開かれた「遊び・学べる空間」を創り出したいと考えています。

また、環境を整備することで、今まで以上に、学生や教員のフィールド研究や、制作・発表の場としても活用することができ、そこで深めた研究の成果は、地域の子どもたちへの教育活動としても還元していきます。

こうして学生たちや地域の方が集まることで交流が生まれ、地域に密着した新たな取り組みが生まれ、その取り組みに共感して集まった人たちが、また新たな取り組みを生む……この連鎖が、大学や地域の魅力となり、地域の活性化にも繋がっていくと考えています。

この一連の構想を、私たちは「あそべーる構想」と呼んでいます。

岩見沢校では、この構想を実現するため、より一層努力してまいりますので、地域の方々や、この構想に賛同していただける皆様からも是非ご支援を賜りたく、引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

■ 新型コロナウイルス感染症に伴う「緊急学生支援金」について

本学では、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮し修学が困難な学生を支援するため、令和2年度に新たな修学支援事業として「緊急学生支援金」を創設し、当該支援金の総額（予定額）1,500万円を集めるため種々募集活動を行った結果、予定額を上回る約1,900万円の寄附を集めました。

この寄附金を基に、令和2年6月には、アルバイト収入が激減（50%以上）又は全く無くなった学生やアルバイトをする予定であったができなくなった新入生など、応急的支援を必要としている学生に、一人あたり3万円を給付しました。次に、令和2年8月には、6月の給付後に対象となった学生で同じ条件の学生に、一人あたり3万円を給付しました。さらに、令和2年10月には、前2回の受給者を除く自宅外学生で生活費の大部分を自己負担している同じ条件の学生に、一人あたり2万円を給付しました。

今後も、当該支援金の給付残額などを財源として、昨年度と同様、経済的に困窮し修学が困難な学生を支援するため、一人あたり1～3万円を給付する予定です。

■■ クレジットカード決済によるご寄附について ■■

北海道教育大学基金のWebサイトからお申込みいただけます。
詳細はWebサイトをご覧ください。（スマートフォンからのお申込みもできます）

北海道教育大学基金 検索

■■ 北教大古本募金について ■■

皆様が読み終えた書籍等を提供いただくと、その買取金額が「北海道教育大学基金」に寄附され、育英事業等に役立てられます。ホームページからのお申し込みに加え、各キャンパスに回収ボックスも設置しております。不要となった書籍、CD、DVDなどのご寄附をお待ちしております。

北教大古本募金 検索

寄附者様特典

■寄附者のご芳名の掲載について

ご寄附をいただいた方々への感謝の意を込めまして、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。また、高額のご寄附をいただいた方々につきましては、本学ホームページ上のWeb寄附者銘板にご芳名を刻み、末永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載の削除を希望される場合は、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

■贈呈品について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学関連の贈呈品を差し上げております。

ホタテ箸

コースター

藍染ハンカチ

■定期演奏会等への御招待について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学が実施するイベント（定期演奏会など）に御招待します。

税制上の優遇措置（税額控除制度について）

■対象：修学支援事業

租税特別措置法の一部改正により、国立大学等が実施する修学支援事業に充てられる個人からの寄附にかかる所得税の税額控除制度が導入されることとなりました。

北海道教育大学基金の修学支援事業へのご寄附は税額控除の対象となりますので、確定申告の際に寄附者様において、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

（所得金額（年収）－諸控除（扶養控除等））×（税率）5%／10%／20%／23%／33%／40%／45%＝所得税額（寄附金－2,000円）×40%を控除

寄附金のうち、2,000円を超える額の40%が所得税から控除されます。その金額の所得税が還付されます。
※所得税額の２５%が限度です。

《例：年収500万円の寄附者が1万円寄附した場合》
○税額控除の例：税率に関わりなく、8,000円×40%＝3,200円
○所得控除の例：(10,000円－2,000円＝8,000円）×（税率10%(平均的な世帯の諸控除額を想定)）＝800円

国立大学協会資料から一部転用

【お問い合わせ先】
北海道教育大学基金事務室
〒002-8501　札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号
北海道教育大学総務企画部総務課内
TEL:011-778-0206,0914　FAX:011-778-0631
E-mail:s-somu@j.hokkyodai.ac.jp
https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/
2021.11発行